

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401517		
法人名	有限会社さくらの里		
事業所名	グループホームさくらの里		
所在地	長崎県南島原市深江町戊3135-15		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果市町村受理日	平成22年12月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居定員が6名という小規模施設の特徴を最大限に生かし、利用者一人一人の心と体の能力にあった、きめ細かい介護プランを立て、生きている事の素晴らしさとその後にある満足感が得られるよう支援していく。
 終の住み家として、本当にさくらの里に入って良かったと思ってもらえるために。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた場所にあり、落ち着いた雰囲気のあるホームである。人とのつながりを大切にするホームで、ほぼ毎日の様に、近くの人が散歩の途中に寄られたり家族の面会がある。居室は2階にあり、階段に設置された昇降機を利用できる。地域活動や、住民との交流を大切にしながら、いつでも駆けつけてくれる親戚の医療機関と密な連携を取り、医療面と介護面の両方で安心して生活して頂ける様支援していきたいとしている。また、今年からホワイトボードの活用をはじめ、そこには毎月のスローガンと利用者に関する注意事項を記入して、職員全員のケアと意識の統一を図っている。今後も、利用者定員6人という少人数を活かした行き届いたケアを行っていききたいし、更なるサービスの充実と向上の期待できるホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護日誌や連絡帳での記述に「利用者様」や「 されていた」等の言葉遣いが多くなっていることから、理念の共有と実践は確実に浸透してきている。	運営者と職員が共に考えて作られた理念には、利用者にとって幸せの場所でありたいという思いが込められている。理念実現のために毎月の目標を掲げ、利用者一人ひとりの思いを大切に利用者本位のケアが行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の小学校行事や地元自治会の行事には体調が許す範囲で必ず参加しており、また、ホームの行事には近隣の高齢者を招待するなど交流を深めている。	地元の小学校や地域行事には積極的に参加している。特に小学校の運動会や地域の夏祭りには全員参加され地域の草刈りでは、利用者がお茶を出すなど地域で暮らす継続支援がある。又運営者が自治会の副会長をされ、より地域の交流に努められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議ではホームの対策や能力も発表しており、役員を通じ、地域に向けて発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設にとって、どんなにマイナスのイメージを持たれようが、全てをあからさまにし、理念実現のため従業者一人一人の質の向上を目指している。	今月3回目の開催を予定し、市の担当者、家族代表、民生委員、老人会の副会長と管理者、全職員で話し合っている。話が円滑に進む様に、事前に議題を知らせ取り組んでいるが、参加者からの意見が少なく、報告が主になっている。	例えば、外部評価の結果を報告し、それに基づいた改善課題の話をする等、率直な意見を引き出す様に努力をされ、内容の充実を図られることに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事故報告以外では密に連絡を取っているとはいえない。これからはホームで対応困難な事例等でアドバイスを求めていきたい。	公的扶助を利用されている方がいる為、来所がある。ホームへの行事へ参加を呼び掛ける等、関係作りに努力しており、不明な点がある場合は、意見交換を行いながら、より良い協力関係が築ける様に取り組んでいきたいとしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所の壁等にも「身体拘束を制限する行為」や「緊急やむを得ない場合の対応」等の文書を掲示し、正しい理解を促すとともに拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全を確保し、かつ自由な暮らしを制限することが無い様に目配りを徹底し見守っている。また、マニュアルを作成し、研修も行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無視や無言さえ虐待であると機会あるごとに話し合い、防止に取り組んでいるが、つい大声が出たり、ムツとした顔で接するケースがごくたまに見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解している従業者は3人程度で、学ぶ機会もほとんど無い。入居者6人はその家族等が管理しているが、2家族には成年後見制度を紹介している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には可能な限り家族にも出席してもらい、また、ケアプラン見直しに生かせるよう本音の意見を聞くようにしている。	面会時をはじめ、相談苦情窓口、意見箱の設置等傾聴の姿勢を伝え、努力されている。以前、直接意見を言われたこともあったが、意見や要望を運営に反映させるまでには至っていない。	意見を聞くためにアンケートの取り方を工夫され、頂いたアンケート結果を家族に伝える事で更なる意見の集約を図り、運営に反映させる事に期待したい。又、毎月発行されているホームの新聞に傾聴の姿勢を伝える事も期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会の許す限り多く、職員会議を開き、また運営推進会議でも職員の意見や提案を聞くようにしているが、管理者の意見が多く十分とはいえない。	職員会議を毎月1回開催し、職員の要望や考えを聞く機会を設けているが、その都度気づきは伝える事がある。さらに、資格取得に向けた支援もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	精一杯取り組んではいるが、入居者6人の介護報酬では満足のいく給与水準かは疑問である。少数入所者施設の介護報酬をアップしてほしい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半島内で開催される研修には可能な限り受講するようにしている。また、ホーム内で新聞、テレビを題材に研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は介護保険制度の前からグループホームの運営に関わっており、当時から親しい同業者が複数いるため、問題点などを意見交換する機会は多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者・家族は新しい環境に大きな不安を抱いているので最大限の努力を払っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者同様、不安を抱いているので希望や問題点を聞くため最大限の努力を払っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームが提供できるサービスの限界についても説明し、他サービスの説明も知りうる限り伝えるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さくらの里を一つのチームととらえ、利用者をアスリート、職員を裏方と位置づけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活歴を考え、その方なりの絆が確保できるように生活状況の報告、面会宿泊の機会を確保したり、介護計画について話し合ったり援助をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ケアプランにも重要事項として取り組んでおり、可能性がある利用者に対しては特に取り組んでいきたい。	入居前から利用していた美容室や商店、お墓参りに出かけたり、面会時や年賀状を利用し、1人1人のかけがえのない人や場が途切れない継続の支援をされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最も支援が必要な入居者に対し他の入居者がいたわり、かわいがるといった関係が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一人退所者があったが、その後のフォロー相談、支援を続けていくことは難しい。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの能力、体力に合わせキメ細かい対応、支援を行っている。	日頃の会話を大切に、思いや意向は直接本人から聞いたり、話せない方は表情からくみ取るようにしている。随時アセスメントへの追記も行い、その人らしい暮らしができる様努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に当たっての相談時に最重要課題として取り組んでいる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身能力を十分に把握しており、さらにその日の個人の体調に合わせて1日の過ごし方を決めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身能力に応じ現状に即した介護計画を作成している。	全ての利用者のプランの見直しをした結果、個々に沿った支援が行われる様になった。又、記録の書式も見直した事で、主な所がよりわかりやすくなっている。今後も、本人の希望と状態に沿ったプラン作成をしていきたいとしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には介護記録、看護記録があり、実践や見直しに大いに活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や能力が許す範囲で外食、ドライブ、温泉入浴などを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設や行政施設はあまり利用しているとはいえないが、校区の小学校や自治会、公園、景勝地などは十分に利用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診をはじめ、本人の体調に少しでも変化があれば、早め早めの受診をかかりつけ医で行っている。	ほとんどの利用者が、入居前のかかりつけ医である。変更する場合は、本人、家族の同意を得ている。受診支援は職員が行い、受信結果は通院ノートに記録し職員間で共有され、家族への報告は電話や面会時に行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録は非常に充実しており、特に夜勤者は勤務日が変則なため、大いに参考になっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換、関係づくりは十分に行っているが、治療や入退院は医療機関が決定することなので、その指示に従っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針について、対象の家族と話し合ったが、家族の意向としては「最期は医療機関で」という思いが強く、ホームとしてはあくまで家族の意向を尊重していこうと思う。	今まで看取りの経験はなく、医療連携体制加算に伴い、看取りに関する指針を基に、家族への説明と同意を得ている。看護師の配置があり、24時間連絡可能な体制になっている。親戚の医療機関と密な連携を図り、ニーズがあれば行う方針である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が実践力を付けているとはいえないが、当ホームには看護師をはじめ、ベテランの介護師が3人おり、社内研修でそうした力を付けていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対してはスプリンクラーを設置し、安全度は大幅にアップしたと思うが、地震や水害に対しては、実際どのように訓練したら良いか判らない。行政に相談してみる。	今年スプリンクラーを設置し、消防署立会いの下、これまでに2回避難訓練を実施している。訓練には、地域の消防団、住民の参加があり、地震については、職員が消防学校で研修も受講している。また、夜間の訓練も実施しており備蓄についても整備中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ごくたまに大声がでたり、ムツとした顔つきになることもあるが、他の職員がそれとなくカバーするなど随分と対応は良くなっている。	11月のスローガン“やさしい言葉使い、笑顔”を掲げ注意するようにしている。又、個人情報やプライバシーに関わる書類等は厳重に管理されている。マニュアルはあるが研修がなされていない。	ケアの基本である“人権を守る”という事を念頭に入れ、利用者の誇りを傷つける言葉や対応になっていないか日常的な確認と研修をされ、周知徹底される事に期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志や思いが第一であり、一人ひとりの心身の能力に応じてそのように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまで職員の都合を優先することが多分にあったが、現在は入浴等においても時間的に本人の意向を尊重するようになった。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「こっちの方が似合うよ」とか「持っているのだからあれを着たら」と結構アドバイスしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けを協力してもらったり、メニューは何がいいか聞いたりしている。また、楽しみのため、外食も定期的に行うようにしている。	準備や後片付け等一緒にするが、無理強いはいしない。毎月1回外食の支援があり、楽しみの一つになっている。また、個々の咀嚼、嚥下状態に合わせ、流動食、きざみ、おかゆ、普通食を提供しており、ミキサーを職員の要望により購入された事例もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から食事量や好みの把握をして、各自に提供し、栄養についてもバランスを考えている。また、水分摂取量についても必要量に応じて対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない入居者に対しては職員が支援しているが100%とはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が人間の基本であるという観点に立って、頻度、質ともにキメ細かいトイレ誘導を行っている。	排泄パターンの把握と本人の表情から察知し、トイレ誘導を行っている。今年秋には、トイレでの排泄を目標とし、1週間に50回以上トイレ誘導し、全てオムツ内排尿だった利用者が初めてトイレでの排泄に成功した事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	2日間も排便が無ければ大騒ぎになるほど、運動や水分摂取に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の方で曜日を決めており、必ずしも個々に添った支援をしているとはいえないが、温泉入浴を月に1回実行するなど、入浴の楽しさを提供している。	週に2回(夏は毎日でも可能)、入浴日を設けているが、時間の設定はない。また、可能な方は、月に1回の温泉支援があり、利用者に好評である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で出来る人は、一人ひとりの自主性に任せているが、衣類や寝具、温度管理など各人に合わせて職員が支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ゴミ箱を見たり、服薬後の袋を回収したり、それを写真に撮って記録するなど、神経質と思われるくらいに取り組んでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画に沿って全力をあげて取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かけるのは利用者にとって最大の楽しみであり、一人ひとりの体調・能力に合わせてできる限り外出の支援をしている。	昨年度から始めた観世音三十三霊場巡りは、今年の秋で15か所の参拝が済んでいる。家族支援によるお墓参りに加え、弁当持参のドライブ、買い物、外食等の積極的な外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持できる入居者には所持してもらい、出来ない入居者の人の分は預かって、使うことの大切さや楽しみを支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は無料で自由に使ってもらっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室も含め、全館に空調を整備しており、快適に過ごしてもらっている。玄関にはソファを置き、常に季節の花を生けて楽しんでもらっている。	窓からは山や畑が見え、季節の移ろいを肌で感じる事ができる。共有の空間には、空調の設備があり、利用者は居心地良く過ごしている。又、明るく落ち着いた雰囲気、嫌な音や臭いもない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や事務所で気の合った入居者同士で談笑してもらっており、その時職員は静かに見守るようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ローソクやマッチ等は避けてもらっているが、使い慣れた物や好みの物は制限しないで持ち込んでもらっている。	利用者の状況に応じて、畳と床の部屋があり、位牌や家族の写真等、これまで大切にされてきた思い出の品々を持ち込まれ、馴染んだ生活ができる様になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを付け、トイレも利用しやすいように把手など工夫しているが、一階へ降りる階段部分に転落を防ぐ装置がない。		